

「なぜ？」から自分の力で考える

「科学の面白さを子どもたちに伝えたい。遊びながら科学の不思議を感じて、『なぜ?』を追求し、自分の力で考えてもらいたい」。そんな気持ちから、橋本静代さん（75歳）は退職金を投じて、95年12月、ミニ科学館『発見工房クリエイト』（以下工房）を設立しました。「子ども理科離れが深刻。実験にもとづくことなく知識をつめこもうとする授業のあり方が、子どもたちの科学嫌いをまねいている」と、次世代の人材不足を懸念します。「本来、科学は深く考え、理解するまでに時間がかかるもの。理科が好きになじっくりタイプの子にとっては知識のつめこみ授業はなじめず、学校での評価は『変わった子』ととらえられがち。そ



大人のサークル『科学対話』の風景

科学の面白さを子どもたちに



橋本静代さん
(麻生区黒川)

のため不登校になり、大切な芽が育たない子もいる」と橋本さんは指摘します。ご自身のお子さんの経験からも、こうした子どもを伸ばすために何か手をさしのべたいと思ったことが、工房を設立する原動力となりました。

一緒に探求する大人の姿勢が大切

工房の庭には、表側をわたっているのに、いつのまにか裏側にきてしまう『メビウスの渡り棒』、片方の揺れが止まるとう一方が動き出す『共振ブランコ』など、遊んでいるうちにすっかり科学のとりこになってしまう数々の遊具があります。また、身近な材料を使いゆっくり時間をかけて取り組める『おもしろ科学実験教室』、子どもの考える力を十分に伸ばせる『たんけん工房』、科学をやさ

しい言葉で語り合う大人のサークル『科学対話』などを随時開催。工房へは横浜、千葉などのほか、遠く関西方面から新幹線でやってくるお子さんもいます。「子どもの質問は鋭い。大人と一緒に探求する姿勢が大切で、実験工作教室では基礎原理と注意点を伝え、あとは質問に答えるスタンス。そうすれば子どもはいいアイデアを出してくる」と橋本さんは言います。5年間も不登校であった子が、この工房へ来るのが楽しくて、数日前からうれしきで眠れなくなるほどになり、自分で学校を探し、入学試験を受けるに至ったケースもあるそうです。

橋本さんは「日本の科学教育を学校だけに頼ってはいけけない」と、現在、川崎市や市民グループとともに科学のおもしろさを伝える事業などにかかわっています。子どもたちの未来を思う橋本さんの実践が、少しずつ実を結びつつあるようです。



科学遊具で遊ぶ子どもたち

NPO法人 発見工房クリエイト
〒215-0035 川崎市麻生区黒川276
TEL/FAX 044-981-1892
URL: <http://www.infopia.net/create>